

第1回地下鉄7号線(埼玉高速鉄道線)延伸協議会 まちづくり分科会 協議資料

内 容

1. 浦和美園～岩槻地域のまちづくりについて
2. 将来人口の推計について

## 1. 浦和美園～岩槻地域のまちづくりについて

### 内 容

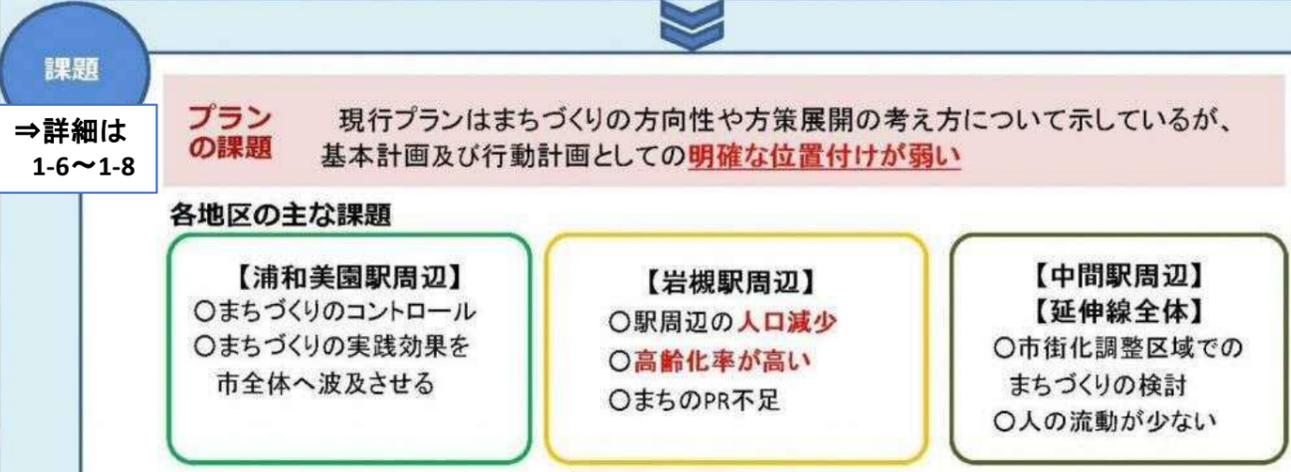
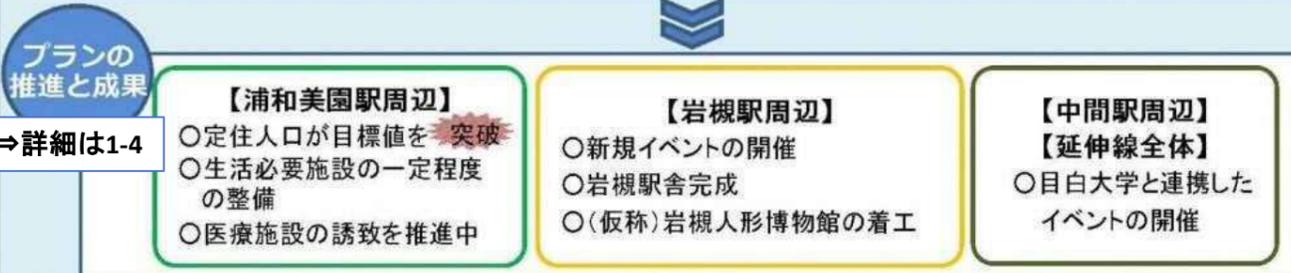
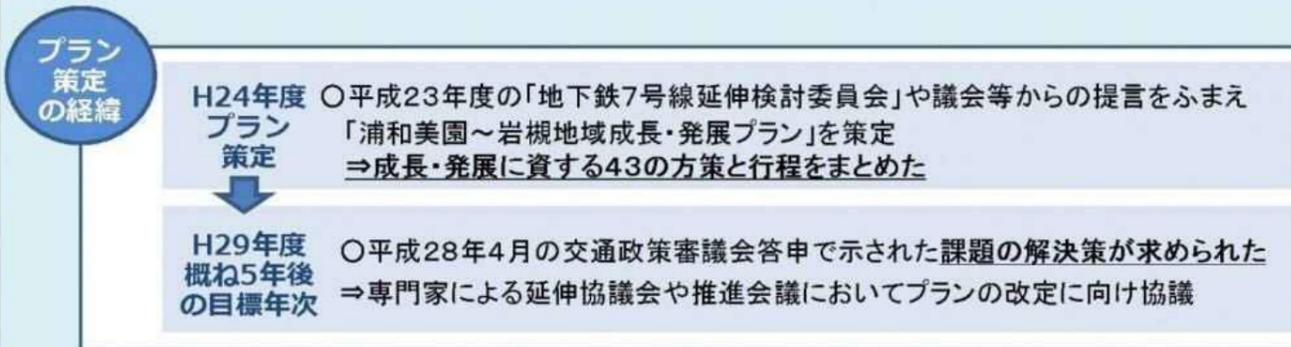
- ①浦和美園～岩槻地域成長・発展プランの改定に向けた考え方について
- ②浦和美園～岩槻地域成長・発展プランの位置付けと対象範囲について
- ③浦和美園～岩槻地域のまちづくり行程イメージについて
- ④浦和美園～岩槻地域成長・発展プランの推進と成果について
- ⑤浦和美園～岩槻地域成長・発展プラン 43方策の評価について
- ⑥浦和美園～岩槻地域の現状と課題について
- ⑦埼玉スタジアム駅の常設化について

【参考1】中間駅周辺のまちづくり構想(コンセプト・開発パターン)について(平成23年度調査)

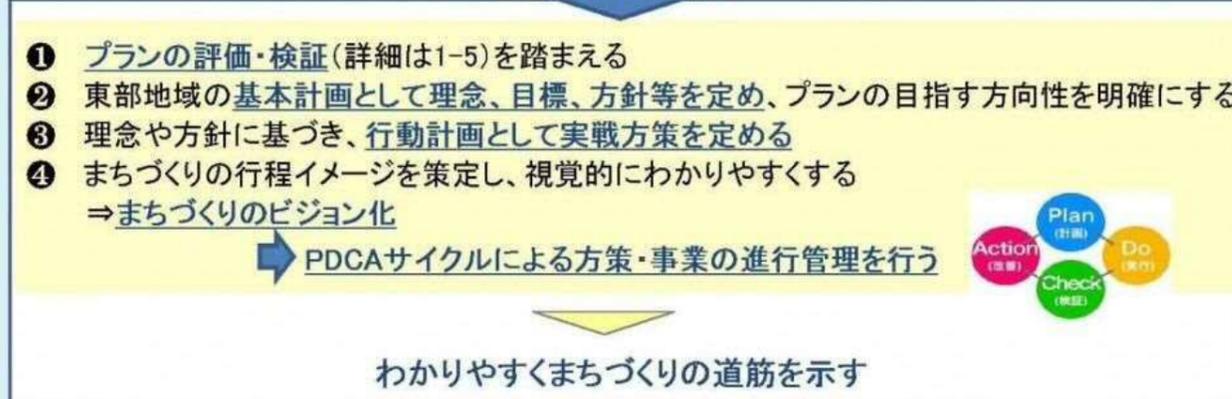
【参考2】平成29年度 浦和美園～岩槻地域成長・発展プランの概要について

# ①浦和美園～岩槻地域成長・発展プランの改定に向けた考え方について

## 1. プラン改定に向けた方向性



### プラン改定の方向性



## 2. 新プランのイメージ

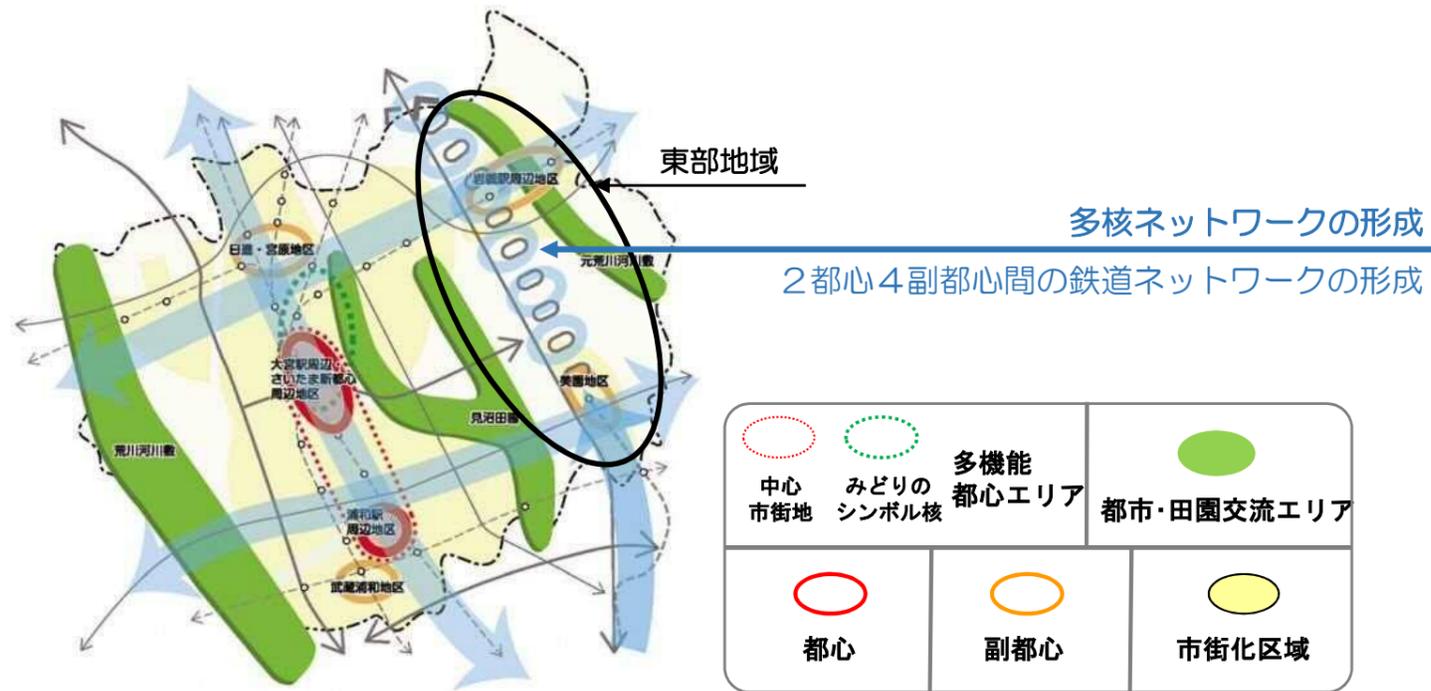


## 3. 行動計画のマネジメント

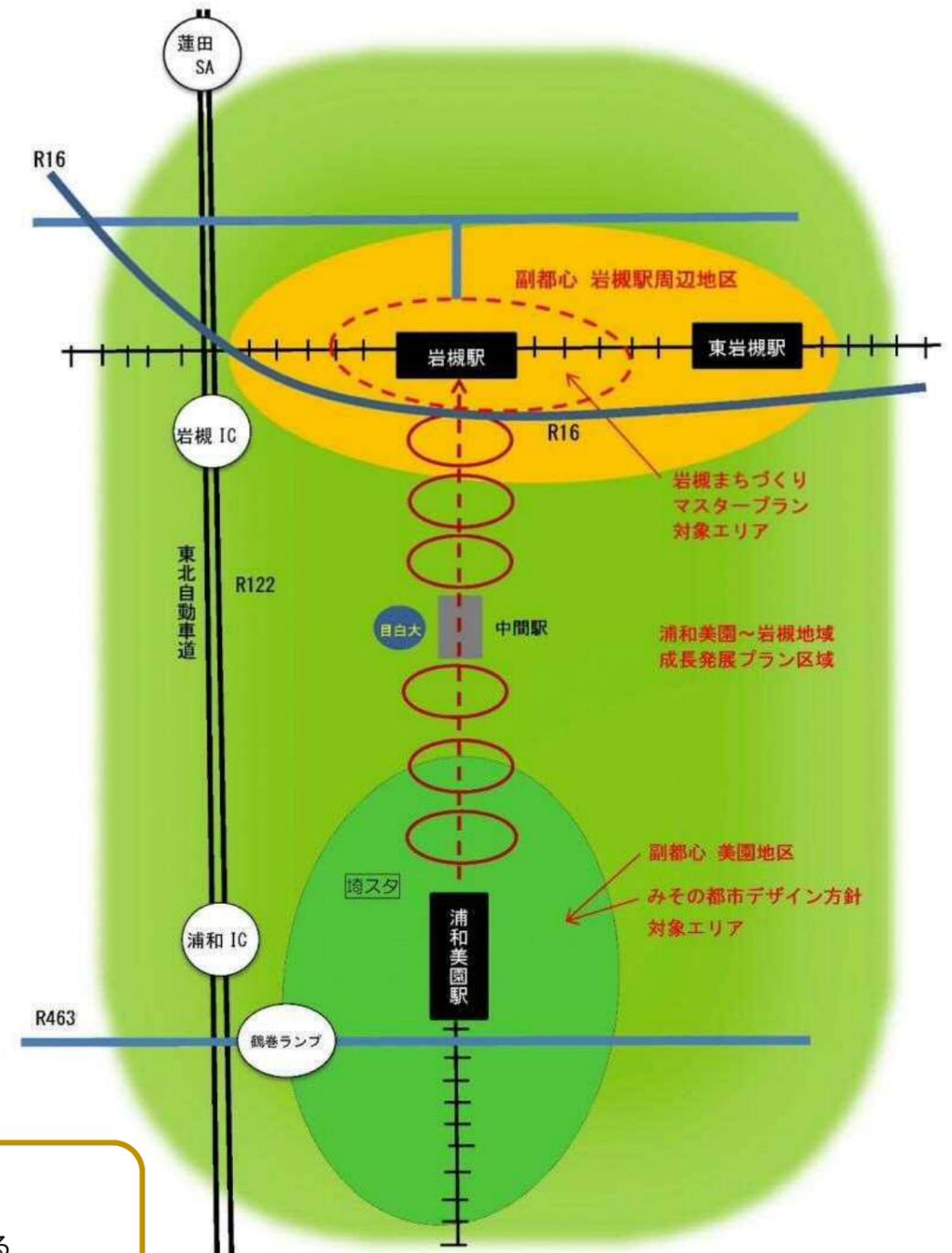


## ②浦和美園～岩槻地域成長・発展プランの位置付けと対象範囲について

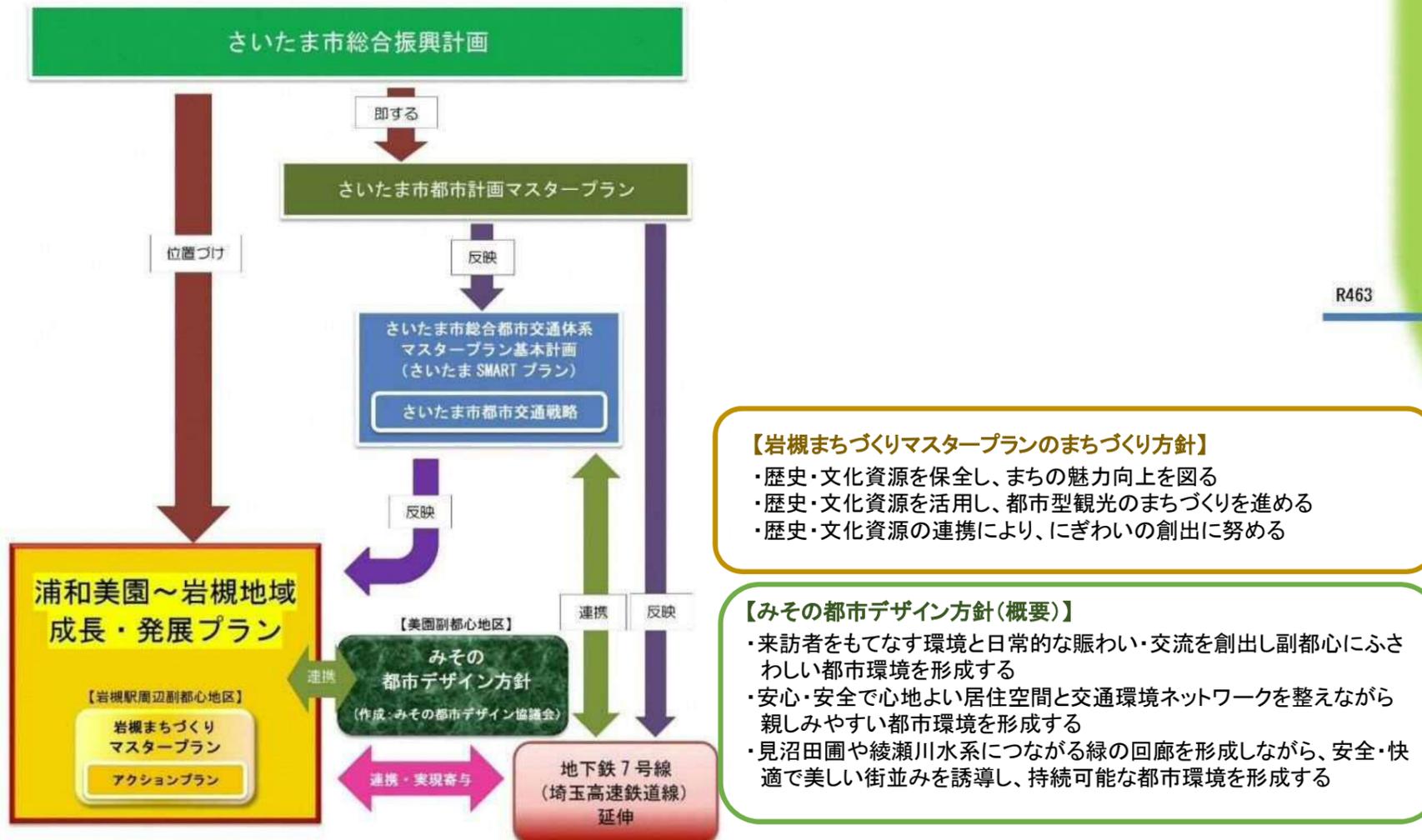
### ① 本市の東部地域の位置（対象範囲）



### ③ 成長・発展プランと既存計画との関係



### ② 浦和美園～岩槻地域成長・発展プランの位置づけ



**【岩槻まちづくりマスタープランのまちづくり方針】**

- ・歴史・文化資源を保全し、まちの魅力向上を図る
- ・歴史・文化資源を活用し、都市型観光のまちづくりを進める
- ・歴史・文化資源の連携により、にぎわいの創出に努める

**【みその都市デザイン方針(概要)】**

- ・来訪者をもてなす環境と日常的な賑わい・交流を創出し副都心にふさわしい都市環境を形成する
- ・安心・安全で心地よい居住空間と交通環境ネットワークを整えながら親しみやすい都市環境を形成する
- ・見沼田圃や綾瀬川水系につながる緑の回廊を形成しながら、安全・快適で美しい街並みを誘導し、持続可能な都市環境を形成する

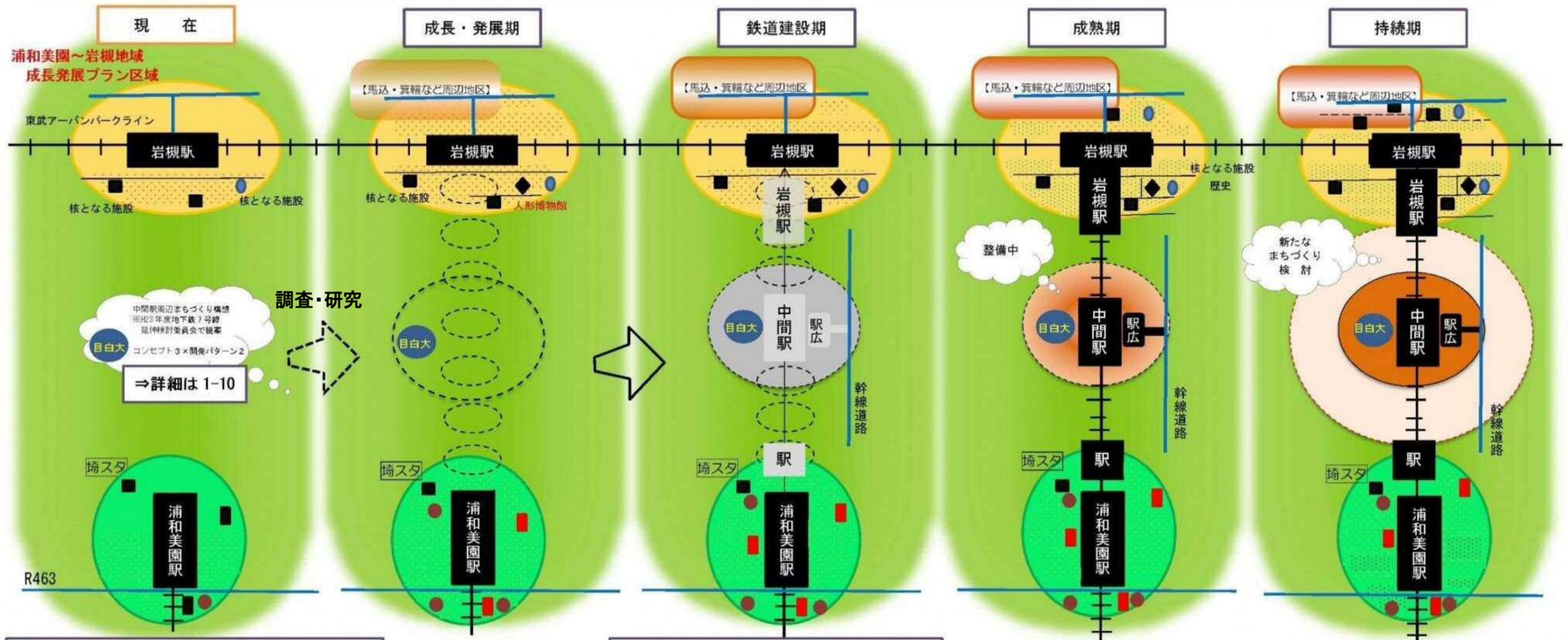
### ③浦和美園～岩槻地域のまちづくり行程イメージについて

#### 【延伸線沿線まちづくりのイメージの指針】

- 鉄道は、まちづくりを進める一手段であり、まちの装置でもある。
- コンパクトシティ+ネットワークのまちづくりをめざす。
- 自治体は、鉄道事業者が進出しやすい状況（環境）のまちづくりを進める。

#### 【まちづくりの方向性】

- 岩槻駅周辺地区：城下町や人形のまちとしての歴史・文化が息づく、ふれあい・おもてなしのまちづくりの創出
- 中間駅周辺地区：自然と共生し、地域資源を活用したまちづくりの創出
- 浦和美園駅周辺地区：スポーツ、健康、環境・エネルギーをテーマに新しいまちの創出



※中間駅周辺は市街化調整区域であり、農振農用地区

※鉄道建設時にあわせ中間駅周辺のまちづくり



# ④浦和美園～岩槻地域成長・発展プランの推進と成果について

## 1. 浦和美園駅周辺地区



### ①都市基盤整備の進捗



### ②生活必要施設の一定程度の整備



### ③医療施設の誘致を推進中



### ④民間・市民団体等の取組



## 2. 岩槻駅周辺地区



### ①岩槻駅舎完成



### ②(仮称)岩槻人形博物館の着工



### ③歴史・文化にちなんだイベントの開催



## 3. 中間駅周辺地区・延伸線全体

### ①地域資源を活用したイベントの開催



# ⑤浦和美園～岩槻地域成長・発展プラン 43方策の評価について

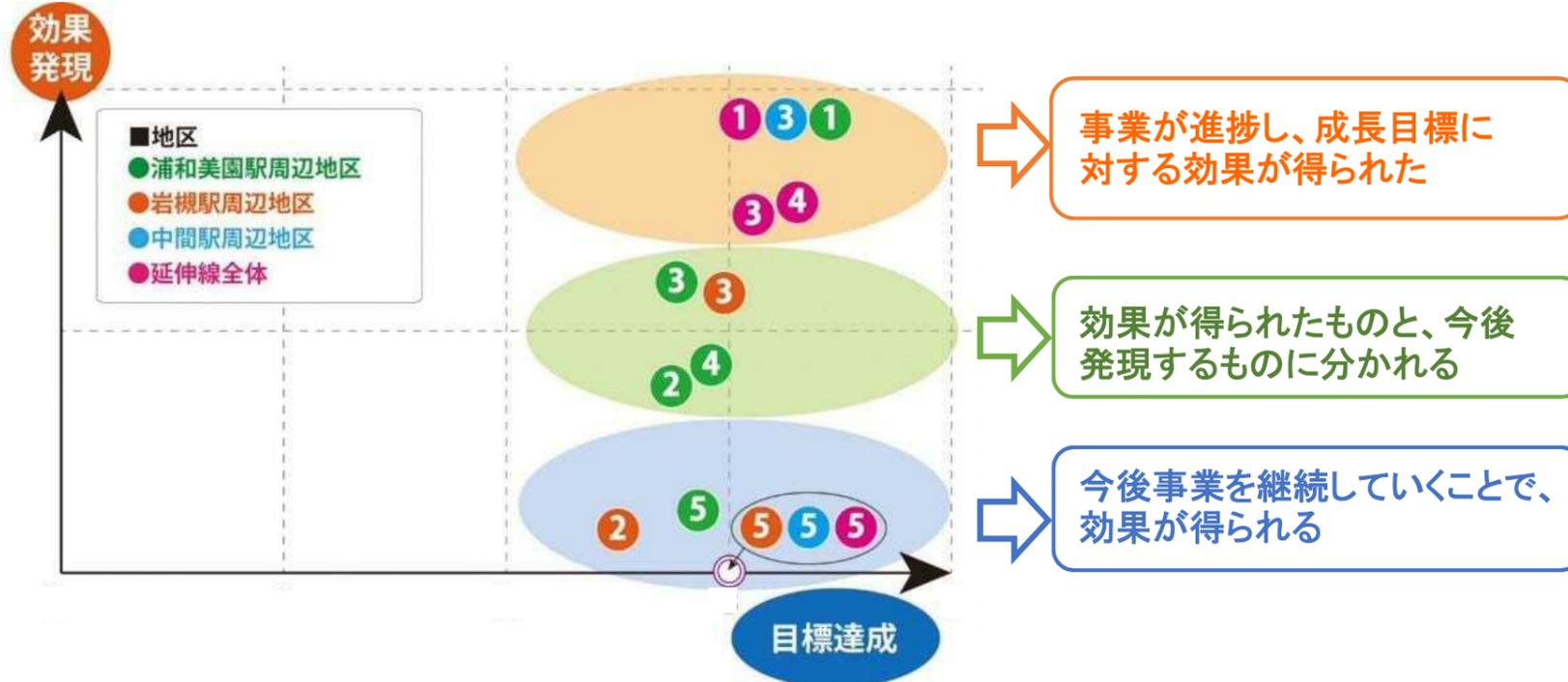
## ■浦和美園～岩槻地域成長・発展プラン43方策の評価について

**(第Ⅰ期)**  
平成24年  
～  
平成26年  
プラン推進の初期であることから、目に見える成果がまだ現れてこなかった。  
⇒**基本的にプランを継続**

**成長・発展プランの推進**

**(第Ⅱ期)**  
平成27年  
～  
平成29年  
事業が進捗し、目に見える効果が現れてきた。  
⇒**プランに掲げる43方策について評価を実施し次のステップへ**

## ■浦和美園～岩槻地域成長・発展プラン43方策の評価 (丸数字は方策の分類番号)



### 方策の分類

#### 地域の情報発信

1 ブランドイメージ戦略

1 36 地域の情報発信・PR

### 方策のマネジメント等

37 地下鉄7号線延伸事業化推進期成会

#### まちの基盤整備

2 施設誘致・整備  
3 土地利用促進方策の推進  
4 浦和美園駅周辺 土地区画整理事業の推進  
5 憩い空間の創出  
13 スマートホーム・コミュニティの普及

2 19 岩槻駅西口土地区画整理事業の促進  
20 岩槻駅周辺環境整備

38 延伸線整備基金

39 地下鉄7号線延伸整備調査

#### 地域資源を活用した交流

6 観光機能の強化 (散策ルート、観光マップ、地場産販売、外国人観光客誘致など)  
7 イベント開催、誘致 (埼玉スタジアム2002活用、スポーツ・健康にちなんだイベントなど)

3 17 観光施策の推進体制の強化  
18 人形文化・観光機能拠点の整備  
21 歴史・文化にちなんだイベントの開催  
22 観光機能の強化

3 29 イベントの開催、誘致  
30 観光機能の強化  
31 見沼田圃を活用した交流  
35 埼玉高速鉄道線沿線活性化、交流促進

40 地下鉄7号線延伸運営調査

41 浦和美園～岩槻地域成長・発展推進会議

#### 地域内移動の確保

4 8 パークアンドライドの検討  
9 バス路線の変更  
12 超小型モビリティの導入促進

4 32 浦和美園から岩槻までの快速バス運行  
33 移動方策 (バスなど) の充実  
34 自転車ネットワークの検討

42 浦和美園～岩槻地域移動実態調査

#### 将来に向けた検討

5 10 アーバンデザインセンターみその整備事業  
11 みその都市デザイン協議会  
14 埼玉スタジアム駅設置に合わせたまちづくり方策の検討  
15 国際スポーツタウン構想の推進

5 25 施設誘致・整備  
27 新駅設置に合わせたまちづくり方策の検討

5 28 施設誘致・整備施設の立地を想定した開発可能性の検討 (市街化調整区域)

43 7号地域成長・延伸実現マネジメント会議

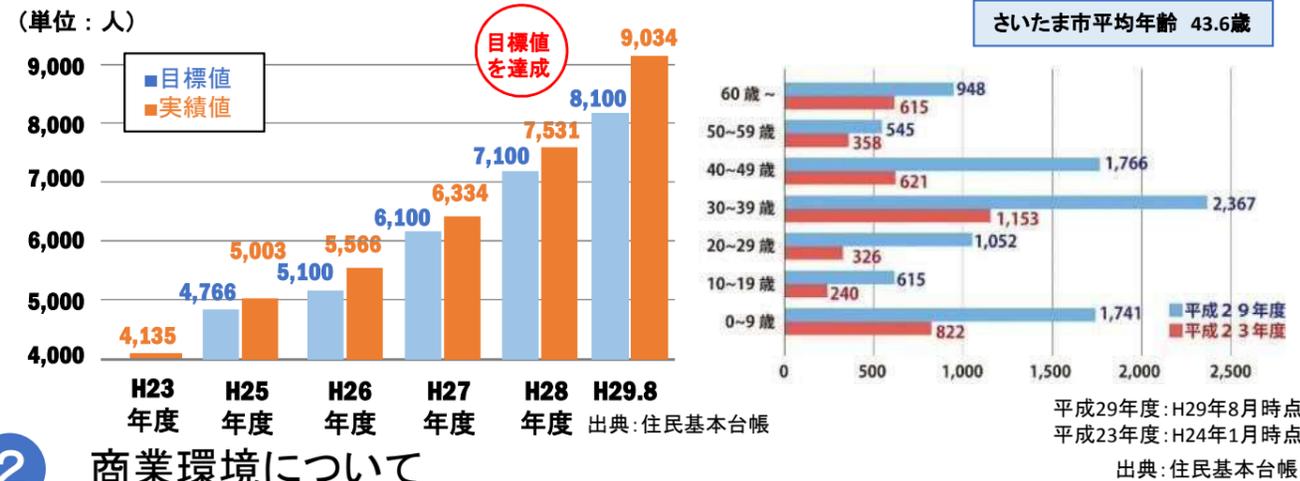
## ⑥-1 浦和美園駅周辺地区の現状と課題について

### 現 状

#### 1 定住人口について

土地区画整理事業による基盤整備の推進と、戸建住宅、マンション建設等が促進され、みそのウイングシティ内の定住人口は、9,000人（平成29年8月時点）を突破し、10歳未満および30歳～40歳代を中心に急増している。

みそのウイングシティ内の定住人口の推移 浦和美園駅周辺地区の年代別人口比較(H23,H29年度)

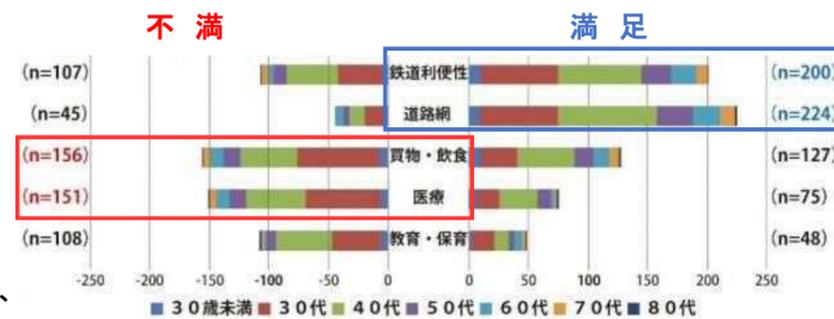


#### 2 商業環境について

浦和美園駅周辺地域の居住者アンケートにおいて、住環境満足度の調査では**交通利便性については満足度が高い**。一方で、「**買物・飲食」「医療」に不満を抱えている人が多い結果**となっている。

また、浦和美園駅周辺地区に立地する主な商業・業務系施設の事業者ヒアリングによると、浦和美園に今後望むものとして、**商圈人口の増加とともに、バス等の公共交通の利便性の向上**という意見が多く挙げられた。

年代別の浦和美園周辺地区の住環境満足度(一部抜粋)



#### 3 イベント開催について

新旧住民等が協働しながら新たなイベントとして「日光御成道美園大門宿まつり」や「浦和美園まつり&花火大会」などを開催。浦和美園駅周辺地区では年間約**30種類のイベント等**が開催され、**約38万人**が来訪している。



浦和美園まつり

#### 4 スポーツ開催について

埼玉スタジアム2002では、Jリーグ等の試合が**年間21試合開催**され、合計**約79万人**が訪れており、まちの賑わいにも寄与している。しかし、サッカー観戦者へのアンケート調査では、浦和美園駅から埼玉スタジアム2002までの道路や歩行者空間を改善する意見が多く挙げられている。

出典:地下鉄7号線延伸線基本計画 報告書「埼玉スタジアム来場者に対するアンケート調査」より(調査期間H25.6.4～H25.10.27、実施主体:埼玉県、さいたま市共同)

**浦和美園駅から埼玉スタジアム2002までの道路や歩行者空間に関する主な意見**

- ・スタジアムまでの距離があるので楽しみながら歩けるようにしてほしい
- ・急ぐ人とゆっくり歩く人のレーンを分けてほしい 等

### 課 題

#### ①将来を見据えた持続可能なまちづくり

若い世帯の定住が急速に進んでいることによる住民ニーズへの対応が求められている。  
一方、同年齢層の急速な増加は将来同時期にまちの高齢化(老朽化)が生じる可能性があり、まちづくりの成長コントロールを行いながら長期的な視点に立った持続可能なまちづくりの検討が求められる。

#### ②まちづくり効果の波及

先進的な新たなまちづくりの実践効果を全市に対して波及することが求められている。

#### ③地域・世代・住民間をつなぐ地域コミュニティの形成

定住人口の急速な増加による地域間、世代間、住民間等によるコミュニティ形成を図る必要がある。

#### ④まちの賑わいの創出に向けた土地利用

基盤整備の推進に伴い、土地利用が行われているが、特にまちの玄関となる駅前周辺の成熟により、賑わいを創出する必要がある。

#### ⑤更なる商業環境の充実と公共交通ネットワークの形成

駅周辺の賑わい施設や生活利便施設など、更なる商業・業務施設の充実が求められている。  
また、土地利用の進展に伴い、今後、地域ネットワーク強化のニーズの高まりが想定される。現在の路線バスのサービス向上や多様な回遊性手段の提供が必要である。

#### ⑥地域資源を生かしたまちの創出

2020年の東京五輪の開催を控え来訪者の安全性、アクセス性、快適性などの向上を図っていく必要がある。  
また、地域資源を生かしたイベント等を開催し、地域の魅力発信と地域内外の交流で更なるブランド力の向上を図る必要がある。

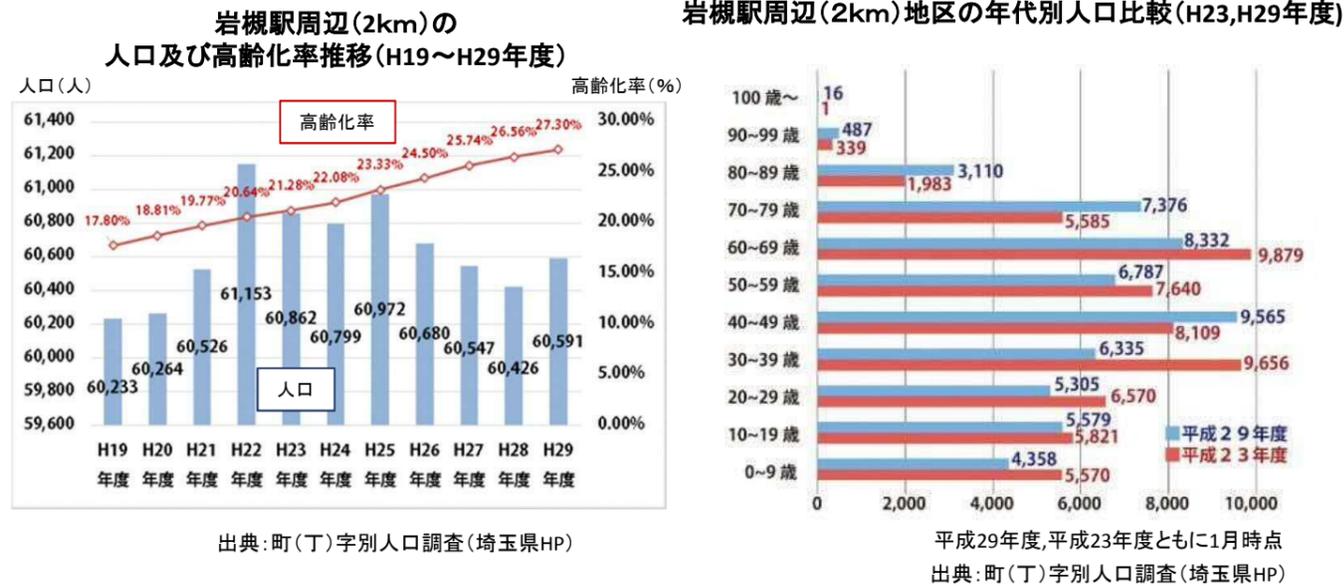
## ⑥-2 岩槻駅周辺地区の現状と課題について

### 現 状

#### 1 定住人口について

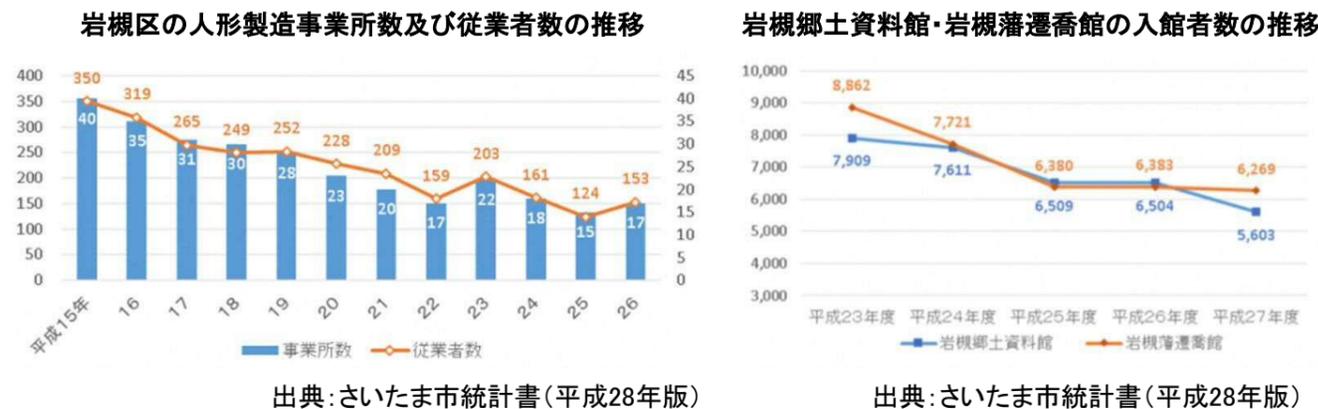
岩槻駅周辺の人口については平成22年より減少傾向が続いている。一方、高齢化率は増加傾向にあり、さいたま市の高齢化率**22.61%**（平成29年9月1日時点）を上回っている。

また、平成22年と平成29年の年代別人口数を比較すると**39歳以下が減少し、70歳以上が増加**している。



#### 2 人形製造事業所数及び岩槻郷土資料館等の入館者数の推移

岩槻区の人形製造事業所数および従業者数は減少が続いており、平成15年から約10年間で半減してしまっている。また、「岩槻郷土資料館」「岩槻藩遷喬館」の入館者数も減少している。



#### 3 イベント開催について

岩槻駅周辺地区では、歴史・文化にちなんだイベント等が年間約20種類開催されており、約47万人が来訪している。

また、地域活動としてまちづくりに係るNPO団体をはじめ各種団体が多く、その活動の幅も広がっており、地域おこしのため、年間を通じた新たなイベントの開催などの取組が行われている。

### 課 題

#### ① 将来を見据えた持続可能なまちづくり

訪れた人に地域の魅力を感じさせる、古い街並みや地域資源として活用されている施設等を、どのように持続させていくかを検討する必要がある。  
また、岩槻駅自由通路や駅舎等が街並みの更新の契機を作っていることから、新旧の街並み形成の持続性を考慮したまちづくりが求められている。

#### ② 地域コミュニティの形成

自治会組織や地域住民による各種団体の活動による地域コミュニティの形成を図るため、情報の共有や支援などを行うことが求められている。

#### ③ 歴史・文化的資源を活かしたまちづくり

岩槻駅周辺に数多くある歴史・文化的資源や新たな拠点となる「(仮称)岩槻人形博物館」等を最大限活用し、情報発信力を含めた観光機能の強化により、国内外から多くの来訪者で賑わうまちづくりを図る必要がある。

#### ④ 公共交通ネットワークの充実

観光地としての回遊性の向上及び高齢者や子育て世代等の交通弱者に対する方策として、地域公共交通サービスを向上させる必要がある。

#### ⑤ 「城下町や人形のまち岩槻」としての魅力発信

歴史や文化等の岩槻の魅力を発信し、交流人口および定住人口の増加へとつなげていく必要がある。

#### ⑥ 定住者、訪問者に向けた新たな取組

まちへの愛着の醸成やアクティブなシニアの育成、また「住んでみたい」と感じさせる取組が求められている。

現 状

課 題

地域資源

現在の取組

1 浦和美園までの鉄道と路線バス



埼玉高速鉄道

快速バス

2 自然環境 田園風景、屋敷林、斜面林等



見沼たんぼ

桜回廊

3 歴史的観光資源 寺社仏閣、無形文化財等



国指定史跡 真福寺貝塚  
(出典:さいたま市HP)

国指定 重要無形民俗文化財  
岩槻の古式土俵入り  
(出典:さいたま市HP)

4 目白大学 目白大学、耳鼻学研究所クリニック



目白大学

目白大学クリニック

将来のまちづくりに向けた検討

・平成23年度の地下鉄7号線延伸検討委員会に提案  
⇒中間駅のまちづくり（コンセプト・開発パターン）  
を6案提案

地域資源を活用したイベント等の開催

浦和美園および岩槻の2つの副都心間の中継する拠点として、現時点では、自然と共生し、地域資源の活用により交流を生み出している。また、台地部には屋敷林や斜面林、歴史的寺社仏閣が点在し、地域文化を発信している。

大学と連携したイベントや講座等の開催

目白大学における公開講座等の開催や、学園祭と連動し、地域連携事業として「いわつきマルシェ」の開催や地元NPO団体と学生の交流が「目白大学SPIS事業」を通して「やまぶきまつり」への参加など地域交流が行われている。

※目白大学SPIS事業とは、学生の夢の実現のチャレンジを目的に学生の生活費の一部を大学がサポートし、地域との連携を推進する事業。（Students Project Incentive Scholarship）

①将来のまちづくりの検討

今後の社会情勢などを考慮し、新駅設置と段階的なまちづくりについて調査、研究することが必要である。

②地域資源の活用強化

地域協働を推進し、地域資源を生かし、使いこなし、付加価値の創造が求められている。

③大学との連携強化

さいたま市との包括協定を基にさらなる連携強化が求められている。

## ⑦埼玉スタジアム駅の常設化について

- 現行の延伸計画では、埼玉スタジアム駅は試合開催時のみ開設する臨時駅である。
- みそのウイングシティのまちづくりの進展と埼玉スタジアム周辺エリアの交通利便性向上を鑑み常設化の検討を行う必要がある。



埼玉スタジアム2002とバス路線の関係位置図



埼玉スタジアム駅のイメージパース



住宅建築が進む埼玉スタジアム周辺

### 常設化の効果

- みそのウイングシティの南北軸形成
- まちの核となる結節点の形成
- 交通空白地域の解消による新規需要の発掘
- 周辺の学校への通学利便性向上
- バス事業との連携による新たな顧客の確保

### 常設化の留意事項

- 停車時分による速達性の低下
- 事業採算性への影響
- 建設費(追加費用約2億円)
- 運営費の増加(年間約1億3千万円)

**■ 地下鉄7号線延伸線のまちづくり**  
 延伸計画(浦和美園～岩槻間:約7.2km) → 鉄道空白地帯が存在 → 中間駅設置・まちづくりの必要性 → **開発需要調査(定着人口約4,000人) + α 産業集積拠点の検討**

**■ 駅周辺の検討テーマ**

浦和美園駅周辺 ＜ニュータウンの建設促進＞ 副都心の形成	スタジアム臨時駅周辺 スポーツ基地づくり	中間駅周辺 地域資源の有効活用	岩槻駅周辺(既成市街地+既設駅との結節) ＜歴史市街地の再生＞ 副都心の形成
------------------------------------	-------------------------	--------------------	--

**■ まちづくり案の絞り込み**  
 まちづくりの将来像・基本方針の検討 → 「コンセプト3案(A・B・C) × 開発パターン3案(I・II・III)」9案を作成し検討。 → 下記の「コンセプト3案(A・B・ABC統合) × 開発パターン2案(II・III)」6案に絞る。

**■ コンセプト**  
 【キーワード】 A案:エコ B案:長寿・健康 ABC案:エコ、長寿・健康、自然

**■ 開発パターン**  
 ・ 交流人口創出型(II型): 産業系中心のまちづくり  
 ・ 定着・交流バランス型(III型): 定着人口約4,000人の住宅系と産業系の複合型のまちづくり

**A案: 環境にやさしい新しいまちづくり**  
 「街じゅうがエコ 太陽を活かす未来都市」  
 E-KIZUNA Project 導入  
 エコ産業が集積したまちづくり  
 エコ・環境・エネルギー産業の誘致  
 研究開発ビジネス  
 環境にやさしい新しいまちづくり  
 自動車に頼らない「歩いて暮らせるまち」  
 自然エネルギーを利用した住宅地  
 緑多い菜園付住宅

【考え方】  
 ・省エネルギーや二酸化炭素の排出削減という、グローバルなニーズにこたえるエコをテーマとするまちづくり。  
 ・E-KIZUNA Projectも導入し、さいたま市らしさを打ち出す。

**交流人口創出型(II型)**

基本構成  
 ●開発規模 約45ha  
 ●定着人口 約500人(産業や学校などの交流人口の創出)  
 ●鉄道利用者推計 約600~1,200人(生産・事務所・学校・研究施設等)  
 ●概算事業費 約250億円(地区外整備約80億円含む)  
 ●費用便益比(国交省マニアルH21) B/C=1.50

【II型とIII型の比較】  
 1 開発規模が小さい  
 2 事業期間が短い  
 3 事業費が安い  
 4 鉄道利用者数は立地の産業系業種により左右される

**B案: 長寿社会に対応したまちづくり**  
 「長生きをサポートする 健康先進都市」  
 スマートウェルネスシティの理念  
 健康・医療・福祉施設が集積したまちづくり  
 健康・医療・福祉系産業の誘致  
 医療モール  
 スポーツビジネス  
 長寿社会に対応したまちづくり  
 ユニバーサル住宅  
 緑多い菜園付住宅  
 ヘルシーロード、健康スポーツ公園

【考え方】  
 ・これからの超高齢社会の中で、長寿と健康を支えるため、ハード・ソフト両面から施策を展開するまちづくり。  
 ・スマートウェルネスシティの理念も取り入れる。

**定着・交流バランス型(III型)**

基本構成  
 ●開発規模 約65ha  
 ●定着人口 約4,000人(住宅を中心に産業・学校などの人口交流の創出)  
 ●鉄道利用者推計 約1,200人(住宅・事務所・学校・研究施設等)  
 ●概算事業費 約330億円(地区外整備約70億円含む)  
 ●費用便益比(国交省マニアルH21) B/C=1.83

【II型とIII型の比較】  
 1 開発規模が大きい  
 2 事業期間が長い  
 3 事業費が高い  
 4 鉄道利用者数は住宅系+産業系であり一定数が見込める

**ABC統合案**  
 「健康と自然を育む木洩れ日の街」  
 E-KIZUNA Project 導入  
 スマートウェルネスシティの理念  
 環境にやさしい新しいまちづくり  
 エコ・健康・医療・福祉系産業の誘致  
 研究開発ビジネス、医療モール、スポーツビジネス  
 長寿社会に対応したまちづくり  
 緑多い菜園付住宅、ユニバーサル住宅  
 ヘルシーロード、健康スポーツ公園  
 自然環境と共生したまちづくり  
 緑豊かな住宅地、自然を活かした散策路

【考え方】  
 ・これからの社会にとって、いずれも必要なエコ・健康・自然全てのコンセプトを取り入れ、10年・20年という長い目で柔軟に地域を育てていくまちづくり。

浦和美園～岩槻地域成長・発展プラン[43の方策]

浦和美園駅  
周辺地区

地区の目指す方向性  
「スポーツ、健康+環境・  
エネルギー」のブランド化を図る

主な  
方策内容

- 1 ブランドイメージ戦略
- 2 施設誘致・整備
- 3 土地利用促進方策の推進
- 4 浦和美園駅周辺 土地区画整理事業の推進
- 5 憩い空間の創出
- 6 観光機能の強化
- 7 イベント開催、誘致
- 8 パークアンドライドの検討
- 9 バス路線の変更
- 10 アーバンデザインセンターみその整備事業
- 11 みその都市デザイン協議会
- 12 超小型モビリティの導入促進
- 13 スマートホーム・コミュニティの普及
- 14 埼玉スタジアム駅設置に合わせたまちづくり方策の検討
- 15 国際スポーツタウン構想の推進

2 施設誘致・整備



商業施設（イメージ） 医療施設（イメージ）  
定住・交流人口に寄与する商業施設・医療施設等の誘致に取り組んでいます。

5 憩い空間の創出



街区公園 調節池遊歩道  
土地区画整理事業による公園等の整備を進めウィングシティの憩い空間を創出します。

4 浦和美園駅周辺 土地区画整理事業の推進



浦和美園駅周辺  
大規模な土地区画整理事業（6地区）の推進とあわせ、土地利用の促進や地区の魅力向上に向けた様々な取組を推進しています。

7 イベント開催、誘致



少年サッカーの練習 浦和美園まつり&花火大会  
埼玉スタジアム2002等の地域資源を活かし、イベントの開催、誘致を行います。

10 アーバンデザインセンターみその整備事業



施設内の様子 まちづくりについてのアンケート  
平成27年10月「公民+学」が連携してまちづくりを進める「アーバンデザインセンターみそ」が開設しました。今後、地域課題に対応したまちづくりを進めます。

12 超小型モビリティの導入促進  
13 スマートホーム・コミュニティの普及



ホンダ超小型モビリティ「MC-β」 スマートホーム・コミュニティ  
低炭素で暮らしやすいまちづくりに取り組み、「スマートホーム・コミュニティ」の整備や超小型モビリティの普及などを進めています。

岩槻駅  
周辺地区

地区の目指す方向性  
歴史・文化で観光機能の  
強化を図る

主な  
方策内容

- 16 岩槻まちづくりアクションプランの推進
- 17 観光施策の推進体制の強化
- 18 人形文化・観光機能拠点の整備
- 19 岩槻駅西口土地区画整理事業の促進
- 20 岩槻駅周辺環境整備
- 21 歴史・文化にちなんだイベントの開催
- 22 観光機能の強化

16 岩槻まちづくりアクションプランの推進



にぎわいの波及（イメージ）  
「城下町の歴史・文化が息づくふれあいのまち」を目指し、旧岩槻区役所の敷地利用と連携しながら周辺整備も推進しています。

19 岩槻駅西口土地区画整理事業の促進  
20 岩槻駅周辺環境整備



岩槻駅西口土地区画整理事業 岩槻駅舎（西口）完成イメージ  
岩槻駅西口の開設と合わせ土地区画整理事業により、駅前広場等の整備を行います。

21 歴史・文化にちなんだイベントの開催



岩槻鷹狩り行列 まちかど鑑めぐり  
「歴史・文化のまち」として様々なイベントが開催されます。毎年11月に行われる「城下町岩槻鷹狩り行列」は徳川家康が鷹狩りをした様子を再現したイベントです。

中間駅  
周辺地区

地区の目指す方向性  
地域資源の活用を図る  
(自然・農業、目白大学)

主な  
方策内容

- 23 目白大学、目白クリニックとの連携
- 24 農業交流
- 25 施設誘致・整備
- 26 イベントの開催、誘致
- 27 新駅設置に合わせたまちづくり方策の検討

23 目白大学、目白クリニックとの連携



目白大学岩槻キャンパス 目白大学耳科学研究所クリニック  
地域と大学が連携し、各種公開講座を開催しています。

24 農業交流  
26 イベントの開催、誘致



コスモスまつり さいたまーち～見沼ツーデーウォーク～  
地域資源や自然を活かし、地域交流創出のためのイベント等を開催しています。

延伸線全体

- 28 施設誘致、整備 施設の立地を想定した開発可能性の検討
- 29 イベントの開催、誘致
- 30 観光機能の強化
- 31 見沼田圃を活用した交流
- 32 浦和美園から岩槻までの快速バス運行
- 33 移動方策（バスなど）の充実
- 34 自転車ネットワークの検討
- 35 埼玉高速鉄道線沿線活性化、交流促進
- 36 地域の情報発信・PR

市民組織

- 37 地下鉄7号線延伸事業化推進期成会
- 資金調達
- 38 延伸線整備基金
- 鉄道関係方策
- 39 地下鉄7号線延伸整備調査
- 40 地下鉄7号線延伸運営調査
- 方策のマネジメント
- 41 浦和美園～岩槻地域成長・発展推進会議
- 42 浦和美園～岩槻地域移動実態調査
- 43 7号地域成長・延伸実現マネジメント会議

## 2. 将来人口の推計について

### 内 容

- ①需要予測について
- ②需要予測の前提条件について
- ③さいたま市将来人口の推計方法について
- ④浦和美園地区の人口定着とビルドアップ曲線について

# ①需要予測について

## 【需要予測フロー】

●需要予測: 将来鉄道が整備された場合に何人が鉄道を利用するかを予測

### 1 現状調査

国勢調査、PTなどで移動の実態を把握

国勢調査、パーソントリップ調査により、現在の状態を把握

国勢調査…人口の基本属性、労働・就業の状態、通勤・通学の状態等の内容の調査

パーソントリップ調査…「どのような人が」「どのような目的で・交通手段で」「どこからどこへ」移動したかなどの調査

## 2 人口フレームの設定

将来人口設定

分析を行う単位地域（ゾーン）別の将来人口を設定

夜間人口、就業人口、従業人口、就学人口、従学人口、昼間人口を推計

### 3 予測: 4段階推定法

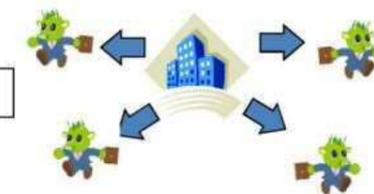
#### ①発生交通量・集中交通量予測

将来の発生交通量、集中交通量の予測（ゾーン別）

発生交通量…あるゾーンから、発生する交通量

集中交通量…あるゾーンに、集中する交通量

発生交通量



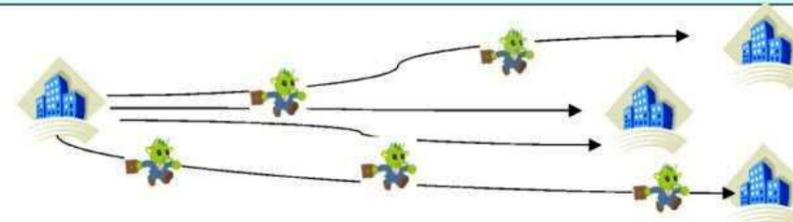
集中交通量



#### ②分布交通量予測

将来の分布交通量の予測…ゾーン間の交通量の予測

分布交通量



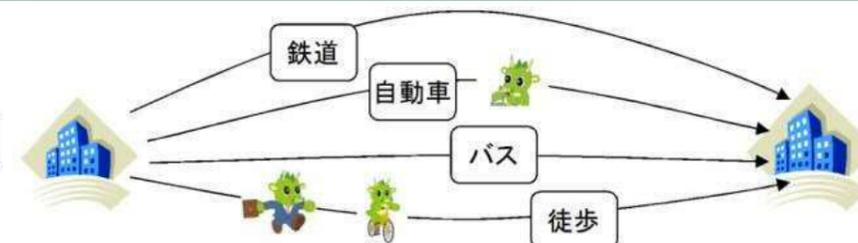
#### ③交通機関別分布交通量予測

将来の交通機関別分布交通量の予測

鉄道、自動車、バス、徒歩・二輪の

各交通機関の交通量の予測

交通機関別分布交通量



#### ④鉄道経路配分予測

将来の鉄道経路配分交通量の予測

…どの鉄道を利用するかを予測

鉄道経路配分交通量



## ②需要予測の前提条件について

		H29年度 地下鉄7号線延伸協議会
予測対象年次		H42(2030年)
基礎データ(人口)		H27国勢調査、H26経済センサス
基礎データ(OD)		H27国勢調査、H20PT調査
将来人口フレーム(都道府県)		H25. 3 社人研推計値
市町村別人口推計		H25. 3 社人研推計値 さいたま市総合振興計画後期基本計画
将来就業人口		交政審と同様
将来従業人口		集中継続ケース
開発人口	沿線開発	明確な建築計画は見込む
	東京都	既存資料「東京大改造マップ2020」等から設定
大規模商業施設	来店者数	平均来店者33.4千人、従業者2300人
	分布・機関分担	H25来店者・従業者調査より
沿線大学	教員・学生数 分布・機関分担	沿線大学等の移動実態調査より
埼玉スタジアム	試合数	国際試合2試合、Jリーグ21試合
	平均来場者数	10年平均
	分布	埼玉スタジアム来場者アンケート(H25)
	機関分担	埼玉スタジアム来場者アンケート(H25)をSRデータで補正
鉄道ネットワーク	路線網	H29ネットワーク+事業中路線
	運行本数	朝ピーク:8本/h、オフピーク:5本/h 夕ピーク:8本/h
	岩槻駅乗換	上下移動:1.8分、水平移動:1.0分
	運賃	消費税10%、SR線学生定期割引を反映
需要予測モデル	機関分担	新モデル
	鉄道経路配分	新モデル
	アクセス	新モデル
	埼玉スタジアム	埼玉スタジアム来場者アンケート(H25)
基礎情報	ゾーニング	交政審のゾーンをもとに沿線を細分化
	目的区分	10区分
	年齢階層	性別年齢階層別(段階によって異なる)



### 市町村別将来人口の推計

さいたま市については、  
さいたま市総合振興計画基本計画将来推計値を  
補正して採用



### 答申準拠ケースの定義

地下鉄7号線(埼玉高速鉄道線)延伸について国の第198号答申に伴う分析手法に準拠し、**地域特性について考慮し**、需要予測、B/C、採算性を試算するケース。

今後、国の調査や地域特性などの状況(データ)の変化については更新するものとする。

### 答申について

- ・国は東京圏における今後の都市鉄道のあり方について概ね15年後(平成42年(2030年)頃)を念頭に地下鉄、民鉄及びJR在来線などの鉄軌道を対象に答申(平成28年4月)にまとめた。
- ・分析は「鉄道需要分析に関するテクニカルレポート」(平成28年7月)に基づき実施した。
- ・複数のプロジェクト(路線)を統一の基準で相対的に分析を行ったことにより、地域特性は考慮されていない。

需要予測等結果	需要予測(千人/日)	答申準拠ケース	—
	採算性		—
	B/C		—

### ③さいたま市将来人口の推計方法について

#### ■将来人口の推計方法

- ・さいたま市における将来人口は、総合振興計画後期基本計画における推計値を基本とする。
- ・ただし、同推計値における平成27年値を、平成27年の国勢調査実績値が上回っているため、その差分を将来推計値に上乗せする。
- ・さいたま市の区別人口についても、同じ考え方により総合振興計画推計値の補正を行う。
- ・その数値を今年度実施する需要予測に使用する。

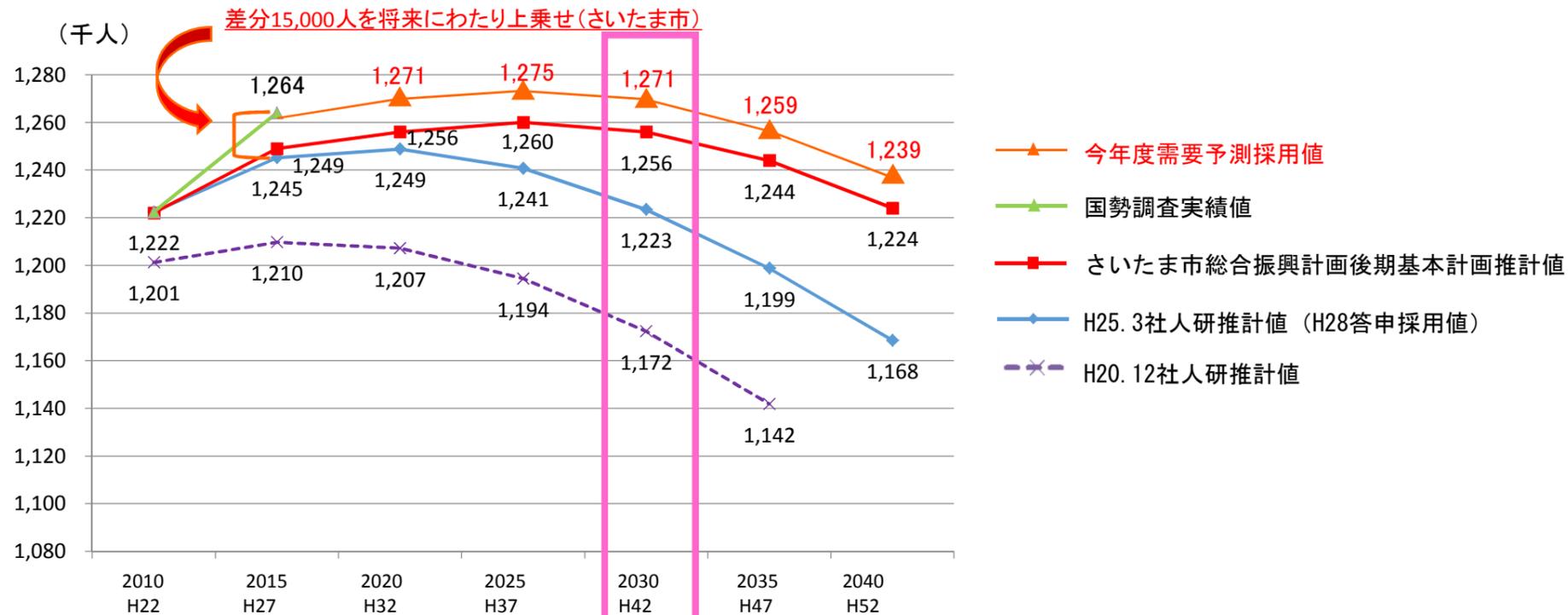


表 さいたま市の将来人口推計

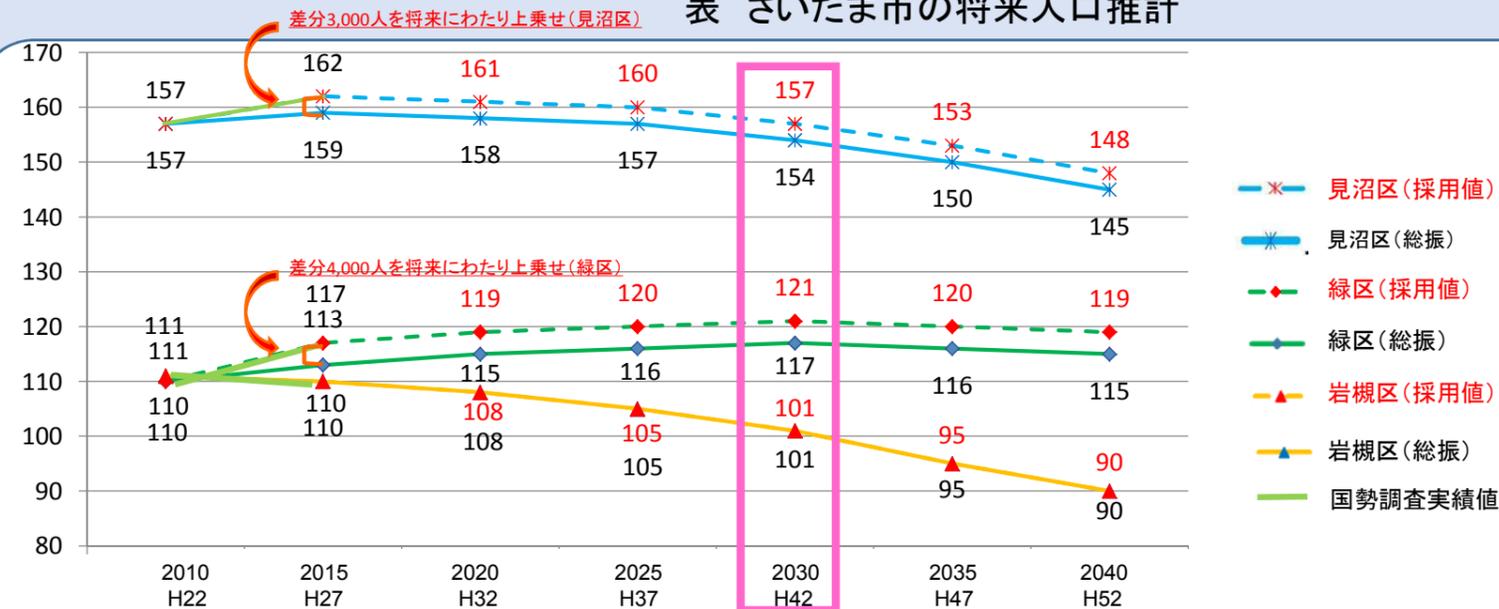
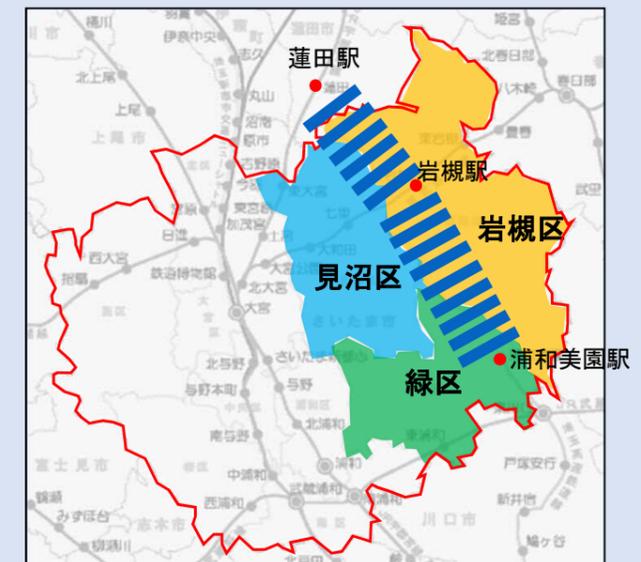


表 緑区・岩槻区・見沼区の将来人口推計

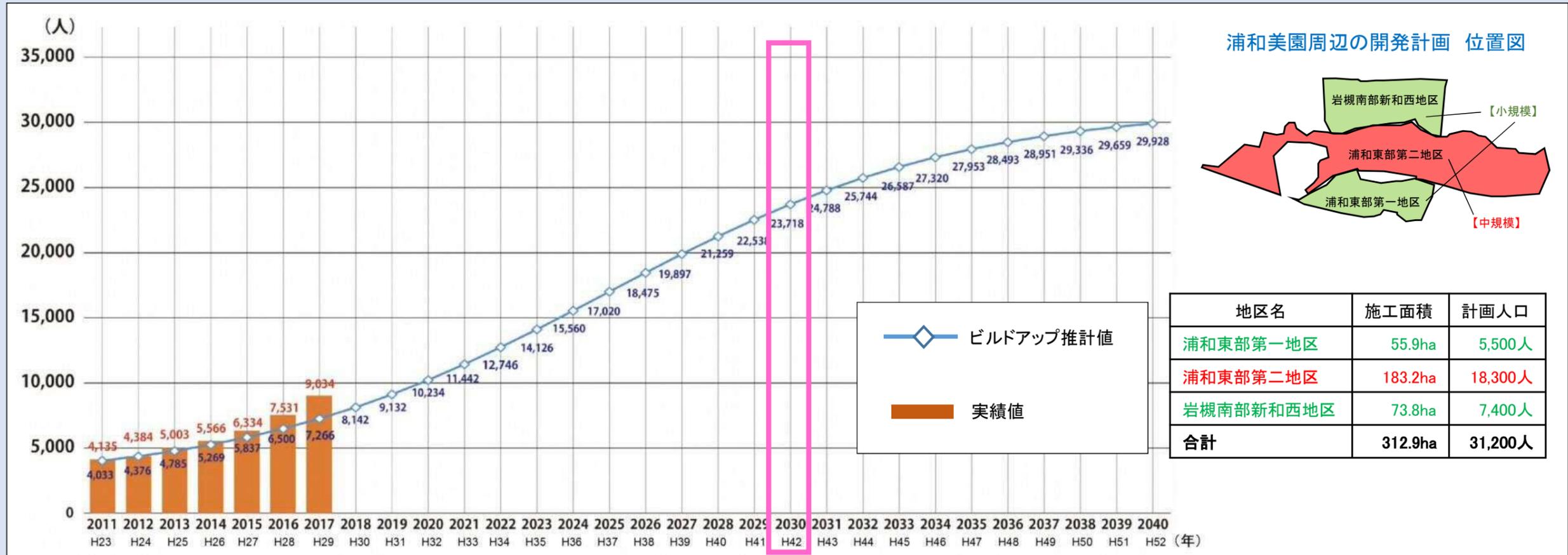


《延伸線のさいたま市内の行政区》

## ④浦和美園地区の人口定着とビルドアップ曲線について

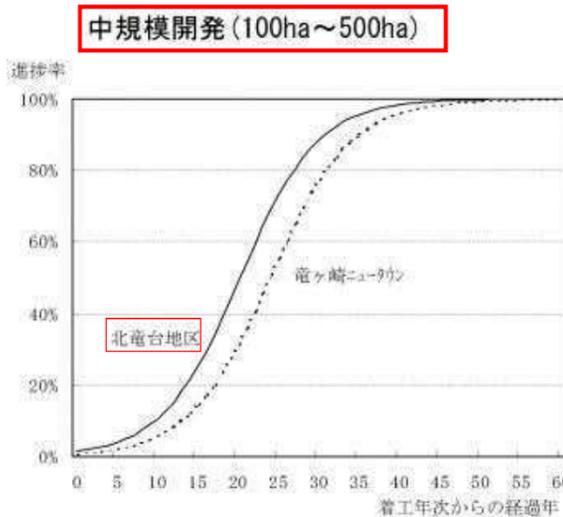
ビルドアップ曲線：開発開始後の経過年次と開発の進捗度（＝進捗率）との関係を示す曲線

将来人口の定着が過去の同規模の開発地域と同様に進捗するという仮定のもと、実績データ<sup>※1</sup>をもとにビルドアップ曲線を推計し、当曲線を用い将来人口を推計する。

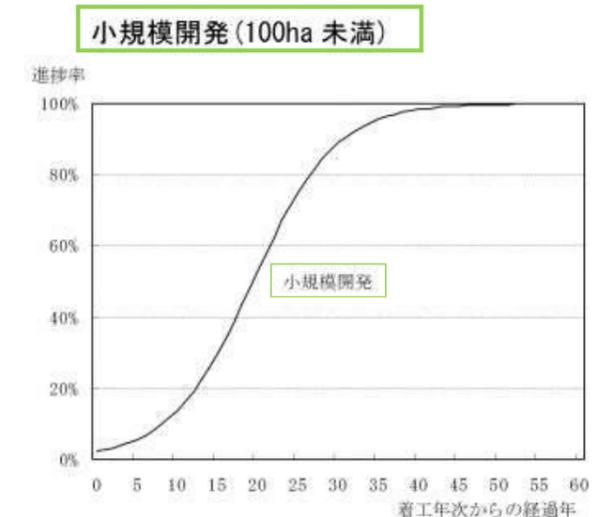


※1 実績データ

過去の同規模の開発地域として、  
 ・北竜台地区のビルドアップ曲線【中規模】(100ha～500ha)  
 ・小規模開発のビルドアップ曲線【小規模】(100ha未満)  
 と同様に開発が進捗すると仮定し、浦和美園周辺のビルドアップ曲線を推計する。



注1) 中規模開発については、規模によって進捗が異なると思われるため、300ha未満は北竜台地区、300ha以上は竜ヶ崎ニュータウンのビルドアップ曲線を適用することとする。



注2) 小規模開発タイプについては、複数の類似した開発地域の実績データに基づき、パラメータ推定を行った。